



編集後記

またぞろ中国共産党が少数民族にちよっかいを出している。内モンゴル自治区の小中学校において9月から中国語教育が強化され、2022年までに、モンゴル族が通う民族学校で「国語」を含む3科目の授業をモンゴル語ではなく中国語で行い、教科書も中国語に変更するという。

もともと中国語の授業はあったというが、国語の授業からモンゴル語が消えることは、モンゴル語自体の消滅を意味するだけでなく、モンゴルの文化そのものが消滅してしまう事態も考えられる。

過去にも満州民族から満州語を取り上げ、さらに彼らが信仰してきたシャーマニズム信仰に至っては、もはや絶滅したといっても過言ではない。今や満州語を話すことのできる満州族は30人にも満たないという。上海市でも1980年代に上海語テレビ放送が実施され、上海語のドラマが大人気を博したところ、当局が規制に乗り出し、いまや上海語も存亡の危機にあるという。

内モンゴル自治区では抗議活動が広がったが、それに参加するモンゴル族の人々がすでに100人以上、死亡・拘束・逮捕されているという。ご承知のように新疆ウイグル自治区では、中国共産党による粛清が続いており、暴動と鎮圧という悪しき応酬によって多くの人が亡くなり、傷つき、拘束されているのはニュースにある通りである。

調べてみると、中国には50を超える少数民族が存在し、それぞれが独自の言語や芸術を持ち、由緒正しき歴史と文化を継承してきている。内モンゴル自治区も新疆ウイグル自治区も、その1つである。

かつて中国共産党は文化大革命の名のもとに、多くの文化遺産や遺跡を破壊し、もはや修復不能なほど壊滅的な打撃を与えてしまった経緯がある。

中国共産党だけではない、アフガニスタンではタリバンと称する一団が、古代以来の都市であるバミヤーンの遺跡を破壊した。こうした狂気とも言える振る舞いが、過去の歴史の

中で繰り返されてきているのである。

今こそ、中国共産党ばかりを批判するのではなく、歴史を尊重し、文化を大切することを再認識し、有形・無形な文化に敬意を払い、先人たちが残してくれたそうした遺産を守り残していくことに注目すべきなのではないだろうか。安易に政治的発想や国家的意向、そして近視眼的な都合を持ち出すと、儂い遺産や遺跡はたちどころに歴史から消滅してしまうのである。

香港も然りである。1843年に英国に割譲されて以降の香港の歴史と文化は、世界でも類い稀なものであり、大いに残すべき価値のあるものと考えれば、現状の中国政府の対応には疑問が残る。

(溪)



タリバンによって破壊されたバミヤーン遺跡

月刊 公論

11月号 第53巻11号

令和2年11月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,000円(税別) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣済堂
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。